



目ぞろい会で入念に確認する生産者



毎週実施される部会員らによる「抜き打ち品質検査」

### 今年のテーマはA品率向上です！

目標販売額20億円達成のキポイントとなる夏ネギの収穫作業が本格化し、部会員166経営体は各圃場、職員もJA野菜集荷所内で汗を輝かせながらこの時期ならではの賑わいを見せています。

今年度のねぎ部会のテーマは「A品率の向上」。生産者所得の増大に大きく影響することから、ねぎ部会（大塚和浩部会長）では、例年実施している部会員らによる「抜き打ち品質検査」に加えて、「重点検査」を実施することとしました。量より質に重点を置くことで、これまで以上に「白神ねぎ」ブランドの品質に対する信頼を勝ち得ることを目指します。

先日開催された目ぞろい会でも、生産者一人一人が入念に出荷規格等の再確認をしていました。



全国制覇を目指す能代科学技術高校バスケットボール部

### 粘り強い「あきた白神米」食べて、粘り強く勝ち進め！

この事業は、2012年度から継続して実施されている能代市の「バスケの街づくり推進計画」の一環。

贈呈式では部員54人が見守る中、能代市長から荒川校長へ、佐藤組合長から同部部長の大野耀斗さん（3年）に米袋が手渡されました。

佐藤組合長は「地元の農業者を代表して激励に来た。今日贈呈した「あきた白神米」は昨年の管理が難しい悪天候条件にも負けず作況1.05の記録を出した力強く育ったねばり強いおいしいお米。たくさん食べて全国制覇目指しねばり強く頑張ってください。」と激励しました。

寮長の「大野さんも「頂いたあきた白神米をたくさん食べて、全国に負けないから大作りをしていきたい。」と意気込んでいます。



バスケットボール部員を激励する佐藤組合長



特賞「みょうが館賞」GETに笑顔！（^\_^）！

### おかげさまで24周年「みょうが館」

7月31日に農産物直売所「みょうが館」では、白神街道直売フェスタ2021（主催…能代山本地区直売活動連絡会）とのコラボ企画で周年祭を開催しました。

大盛況であった「くじ引きコーナー」では、挑戦者の中に購入した商品と同じ新鮮野菜が当たり「あらう、当たるなら買わなきゃよかった」と笑いを誘う様子も見られました。

特賞「みょうが館賞」を引き当てた女性（刀）は「週1回は利用している。いつも新鮮な青果物が販売されていて重宝しています。」と話してくれました。

たくさんの方々にご利用頂きみょうが館は、今後も地域に愛され、多くの皆様に利用される「みょうが館」運営に努めて参ります！



協議会会長を務める佐藤組合長

### 県北地区最重点6品目拡大を目指す！

能代市や藤里町など県北地区の9市町村と県地域振興局、5JA並びにJA全農あきたが組織する「県北地区園芸戦略対策協議会（協議会長…佐藤謙悦組合長）」の第24回通常総会が開催されました。

総会では、令和2年度の事業報告や令和3年度の事業計画が原案通り承認。

承認された令和3年度の事業計画には、度重なる自然災害や長引くコロナ禍の影響に左右されながらも、生産者の不断の努力の結果に敬意を表し、重点品目の生産振興に対する生産者のモチベーション向上を図ることを目的に、生産振興強化を図るため最重点品目に設定している枝豆・アスパラガス・ネギ・きゅうりとまと・椎茸の6品目の生産拡大を目指す。

### 県北地区園芸戦略対策協議会重点品目等優秀生産者表彰要領（抜粋）

※表彰内容

賞	表彰	選考基準
最優秀賞（1人）	表彰状並びに副賞（金一封10万円）	販売数量、金額、栽培面積、単位収量のいずれも総合的に優れている者
優秀賞（2人）	表彰状並びに副賞（金一封5万円）	販売数量、金額、栽培面積、単位収量が優れていて最優秀賞に次ぐ者
奨励賞（2人）	表彰状並びに副賞（金一封3万円）	栽培技術に優れ、産地を牽引した者 生産拡大に積極的に取り組んだ者 産地の維持拡大に功績のあった者 その他、受賞が相当と認められた者

※選考方法

県園芸振興課、JA秋田中央会、JA全農あきたを委員とする選考委員会を開催し選考する。



大を目指すため「県北地区園芸戦略対策協議会重点品目等優秀生産者表彰要領」が新たに定められました。期間は2021年度から2023年度の3か年が対象となり、販売数量、金額、栽培面積、単位収量のいずれも総合的に優れている生産者1人を最優秀賞とし、表彰状並びに金一封10万円が授与されます。その他にも優秀賞2人、奨励賞2人を表彰。JA全農あきたは「これらの表彰制度を設けて、生産者の生産意欲を掻き立て、県産園芸品目の更なる生産振興に繋げたい。」と話します。

### 地域農業に不可欠！日治道早期整備を求め！！

日治道等の高速道路整備促進に対する地元業界の期待や、その活用方策等を意見発表し認識を共有する「高速道路ネットワークを利用した地域づくりフォーラムinあきた」が、県選出国會議員や県内自治体の首長、商工団体の代表者ら約60人が出席して開催されました。

意見発表に登壇した販売課の清水経営相談員は「大消費地へ安心・安全でより新鮮な白神青果物を提供するには高速道路の整備は不可欠。高速道路の利用料金の見直しなどを含め早期に改善することで、秋田県の農畜産物の生産振興の他にも、観光業などの振興など地域経済の活性化に必ず寄与するものである。」と堂々提言して来ました。



壇上で日治道の有効性を提言する清水経営相談員